

令和4年度高幡地域アクションプランの
追加、削除、拡充等（予定項目）

高 幡 地 域 本 部

令和4年2月9日（水）

令和4年度地域アクションプランの追加・削除等（予定項目）

地域アクションプランへの支援の方向性

新規事業の掘り起こしと担い手の育成、事業が抱える課題の解決を図りながら、地域アクションプランの実現に向けて、産業振興推進地域本部を中心に取り組みを推進していく。

(1) 新規事業の掘り起こしと担い手の育成

- ①発掘支援型アドバイザーと連携して、地域アクションプランへの位置付けを目指す取り組みを掘り起こし
- ②地域が主体となって実施するビジネス研修への支援により、産業振興の取り組みを牽引する担い手を育成

(2) 課題解決に向けた支援

- ①課題解決型アドバイザーと連携して、個別課題の解決を支援
- ②課題一貫支援型アドバイザーと連携して、地域への経済波及効果が大きい案件に対し、全体的な課題の整理・分析及び解決策の検討を一貫して支援

地域アクションプランの増減（▲4）

(1) 追加（新規）： 2件

- 須崎市養殖漁業等のさらなる振興（須崎市）
- 浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化（須崎市）

(2) 削除（廃止）：▲5件

- 南国市の農園レストランによる地域食材の消費拡大（南国市）
- JA出資型法人（株れいほく未来）を核とする地域活性化の取り組み（土佐町）
- 四万十川源流等中山間資源活用ビジネスの創出（中土佐町）
- 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化（須崎市）
- 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備（須崎市）

(3) 追加（分割）： 0件

(4) 削除（統合）：▲1件

- 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進（中土佐町）
- 中土佐町の「うまいもん食わしちやお」商品開発プロジェクト（中土佐町）
→「中土佐町地域ブランドの創出と販売」として統合

地域アクションプラン数 R3年度 224件 → R4年度 220件（▲4）

	R3年度 (第4期Ver.2)	R4年度 (第4期Ver.3)				A P 数
	A P 数 R3.9月時点	増減				
		追加	削除	統合・分割	計	
安芸	30					30
物部川	26		▲1		▲1	25
高知市	23					23
嶺北	25		▲1		▲1	24
仁淀川	34					34
高幡	42	2	▲3	(2→1) ▲1	▲2	40
幡多	44					44
合計	224	2	▲5	▲1	▲4	220

○地域産業クラスタープロジェクト R3年度 19件 → R4年度 18件（▲1）

高幡地域アクションプラン項目（第4期計画Ver.2（R3年度）と

No.	現在(令和3年度)	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町	
		7	12	8	8	15	
1	くろしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト	●	●		●		
2	大野見米のブランド化		●				
3	梶原産キジ肉の生産・販売の拡大			●			
4	梶原産肉用牛の生産拡大による地域産業の活性化			●			
5	つの茶販売戦略				●		
6	四万十のうまい栗クラスタープロジェクト					●	
7	四万十町畑作振興プロジェクト					●	
8	四万十のうまい豚クラスタープロジェクト					●	
9	四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト					●	
10	「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源の販売促進		●			●	
11	「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進			●	●		
12	四万十川源流等中山間資源活用ビジネスの創出		●				①削除
13	循環型社会を推進するための梶原町森林資源の有効活用			●			
14	津野町森林・林業再生プロジェクト				●		
15	浦ノ内湾産養殖マダイ等の販路拡大	●					
16	アメゴ養殖事業の再生拡大			●			
17	葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大	●					
18	中土佐町地域ブランドの創出と販売促進		●				-----
19	大正町市場商店街活性化事業		●				
20	中土佐町SEAプロジェクト		●				
21	「中土佐のうまいもん食わしちゃお」商品開発プロジェクト		●				-----
22	中土佐町地産外商の取り組み		●				
23	梶原町地場産品の地産地消・外商の促進			●			
24	津野町地産地消・外商販売戦略				●		
25	四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備					●	
26	四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大					●	
27	四万十町生薑生産農家と連携した集出荷体制の整備と商品開発					●	
28	四万十町産材を活用した商品開発プロジェクト					●	
29	四万十うなぎを活用した加工場整備と販路拡大					●	
30	高幡地域における広域観光の推進	●	●	●	●	●	
31	須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化	●					②削除
32	須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備	●					③削除
33	中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進		●				
34	「黒潮本陣」を核とした滞在型観光推進		●				
35	梶原町の体験型・滞在型観光の推進			●			
36	清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～				●		
37	四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト				●		
38	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり					●	
39	四万十町観光交流促進事業					●	
40	四万十町オアシス風観光交流拠点整備事業					●	
41	ジップラインと道の駅を核とした四万十町(十和地区)の観光拠点施設整備事業					●	
42	須崎市海のまちプロジェクト	●					

第4期計画Ver. 3 (R4年度) の対比表

【高幡地域】

須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町	No.	改定案(令和4年度)
9	12	8	8	15		
●	●		●		1	くろしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト
	●				2	大野見米のブランド化
		●			3	梶原産キジ肉の加工・販売の拡大
		●			4	梶原産肉用牛の生産拡大による地域産業の活性化
			●		5	つの茶販売戦略
				●	6	四万十のうまい栗クラスタープロジェクト
				●	7	四万十町畑作振興プロジェクト
				●	8	四万十のうまい豚クラスタープロジェクト
				●	9	四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト
	●			●	10	「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源の販売促進
		●	●		11	「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進
		●			12	循環型社会を推進するための梶原町森林資源の有効活用
			●		13	津野町森林・林業再生プロジェクト
●					14	浦ノ内湾産養殖マダイ等の販路拡大
●					15	須崎市養殖漁業等のさらなる振興
		●			16	アメゴ養殖事業の再生拡大
●					17	葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大
①追加	●				18	中土佐町地域ブランドの創出と販売促進
	●				19	大正町市場商店街活性化事業
	●				20	中土佐町SEAプロジェクト
①統合	●				21	中土佐町地産外商の取り組み
		●			22	梶原町地場産品の地産地消・外商の促進
			●		23	津野町地産地消・外商販売戦略
				●	24	四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備
				●	25	四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大
				●	26	四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と商品開発
				●	27	四万十町産材を活用した商品開発プロジェクト
				●	28	四万十うなぎを活用した加工場整備と販路拡大
●	●	●	●	●	29	高幡地域における広域観光の推進
	●				30	須崎市海のまちプロジェクト
②追加	●				31	浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化
	●				32	中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進
	●				33	「黒潮本陣」を核とした滞在型観光推進
		●			34	梶原町の体験型・滞在型観光の推進
			●		35	清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～
			●		36	四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト
				●	37	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり
				●	38	四万十町観光交流促進事業
				●	39	四万十町オアシス風観光交流拠点整備事業
				●	40	ジップラインと道の駅を核とした四万十町(十和地区)の観光拠点施設整備事業

高幡地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）

■追加

NO.	アクションプラン名	事業概要
1	須崎市養殖漁業等のさらなる振興（須崎市） 【実施主体】野見漁業協同組合、(株)須崎水産加工、須崎市	須崎市の地域資源である養殖漁業等の振興に向け、新たな水産加工施設を核として、水産物の加工販売を促進することにより、漁業所得の向上や地域内での雇用創出を目指す。
2	浦ノ内マリンパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化（須崎市） 【実施主体】須崎市、須崎市観光協会、NPO法人すさきスポーツクラブ、指定管理者、その他関係事業者等	須崎市海洋スポーツパーク構想による海洋スポーツの振興と海洋レジャー等の体験型観光を推進するとともに、令和4年5月にオープン予定の野外体験施設との連携による交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。

■削除

NO.	アクションプラン名	削除する理由
1	四万十川源流等中山間資源活用ビジネスの創出（中土佐町） 【実施主体】高知精工（株）	当初計画していたクロモジオイルの抽出加工設備の建設を断念したことや、集落活動センターと連携した新たな特産品開発について地域との協議の結果、断念となったことなどにより、今後当プランの発展的な展開が見込めないため削除する。
2	須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化（須崎市） 【実施主体】須崎市	新たにアクションプランに追加する「浦ノ内マリンパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化」に取り組みを統合するため削除する。
3	須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備（須崎市） 【実施主体】須崎市観光協会、NPO法人すさきスポーツクラブ	

■その他(拡充、統合、分割)

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	中土佐町地域ブランドの創出と販売促進（中土佐町） 【実施主体】企画・ど久礼もん企業組合、中土佐町	【統合】 企画・ど久礼もん企業組合が実施主体である、中土佐町の地域資源を使った商品開発や、スラリアイスの活用など付加価値の高い水産物のブランドの創出や販売促進を総合的に取り組むため、「中土佐町地域ブランドの創出と販売」として統合する。
	「中土佐町のうまいもん食わしちやお」商品開発プロジェクト（中土佐町） 【実施主体】企画・ど久礼もん企業組合	

追加項目（案）

追加

高幡地域アクションプラン

分野

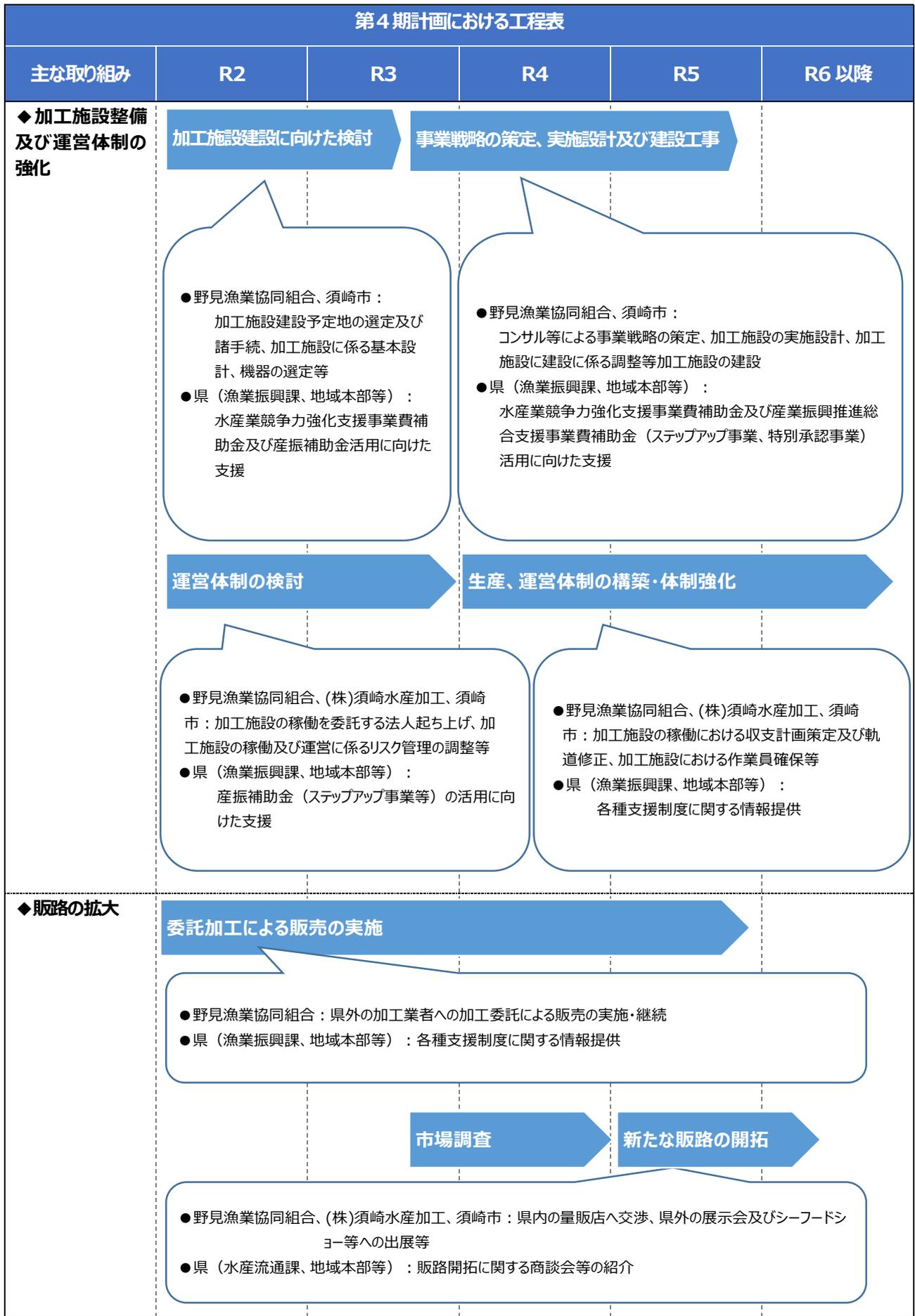
水産

AP 名 (実施地域)	No.15 須崎市養殖漁業等のさらなる振興 (須崎市)
実施主体	◎野見漁業協同組合、(株)須崎水産加工、須崎市
AP への 位置づけ	R4.4月
事業概要	須崎市の地域資源である養殖漁業等の振興に向け、新たな水産加工施設を核として、水産物の加工・販売を促進することにより、漁業所得の向上や地域内での雇用創出を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
新たな加工施設による売上高 (1～12月)	- (R2)	-	-	17,000千円 (R5.11 竣工予定)

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆加工施設整備に向けた検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察 6 回（7 施設）（R3） ・関係者協議 15 回（R3） ・加工機械の PR イベント参加（プロトン凍結機） <p>◆運営体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営主体となる組織体制の検討（R2） ・専任職員の検討（R3） <p>◆販路の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税や須崎市内地域商社と連携した EC 販売（R2） ・県外業者への加工委託による 1 次加工商品の販売（R2） ・「須崎勘八」ブランド化の取組（R2） <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工委託による売上高 R2：238,932 千円（R2.6～12） R3：110,757 千円（R3.1～11） ・運営を行う(株)須崎水産加工の設立（R3.7） ・漁協内に加工場事業に関する専任職員の雇用 1 名（R3.11） 	<p><課題></p> <p>県外への加工委託によるデメリットの発生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸送コストの増加 ・燃料代と輸送量の費用対効果による出荷制限 <p>新たな事業であるが地元での雇用につながっていない</p>
---	--



追加項目（案）

追加

高幡地域アクションプラン

分野

観光

AP名 (実施地域)	No.31 浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化 (須崎市)
実施主体	◎須崎市、須崎市観光協会、NPO 法人すさきスポーツクラブ、指定管理者、その他関係事業者等
APへの位置づけ	R4.4月
事業概要	須崎市海洋スポーツパーク構想による海洋スポーツの振興と海洋レジャー等の体験型観光を推進するとともに、野外体験施設との連携による交流人口の拡大を図り地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
交流人口	8,201人 (R2)	同左		33,000人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆海洋スポーツの振興

- ・すさきオープンウォータースイミングへの国内外有名選手の招へい（H29～）
- ・合宿誘致事業の実施（H29～）
- ・ホストタウン（チェコ等）登録（H29）
- ・チェコ、ベルギー、ロシアナショナルチームによる合宿の実施（H29～）
- ・東京五輪カヌー・ボートチェコ代表の事前合宿（R3）
- ・日本選手権 OWS 競技大会の開催（R3）

◆魅力ある体験メニューの磨き上げ

- ・海上アスレチック等の体験メニュー導入に向けた備品整備（H29、R1）
- ・海洋スポーツ・海洋レジャーの振興に向けた人員の配置（H30～）

◆教育旅行の誘致に向けた体制の整備

- ・他市町村を含めた受入世帯の拡充に向けた研修会の実施（H30）
- ・(一社)須崎市観光協会の設立（R2）

◆地域の活性化

- ・市内業者と連携した割引サービスの実施（H30）
- ・地域内にある住民組織との連携

◆施設の整備

- ・地方創生拠点整備交付金及び高知県スポーツ推進交付金を活用した施設整備
シーパーク大島、カヌー1000mコースの整備（H29）
坂内カヌー場管理棟トレーニング棟の整備（H30）
カヌー500mコースの整備（R1）
体験学習施設の整備（R2）
- ・高知県観光施設等緊急整備事業費補助金を活用した野外体験施設整備や坂内、鳴無神社周辺の受入環境整備（R3）

<主な成果>

◆交流人口の増化

H28：17,060人 → R元：23,433人

◆スポーツ大会・スポーツ合宿の受入人数

H28：1,314人 → R元：3,144人

◆個人向け体験プログラムや教育旅行等団体向け体験プログラムにおける受入人数

H28：4,041人 → R元：7,532人

◆教育旅行等団体向け体験プログラムの造成

H21：2個 → R元：29個

<課題>

- ・教育旅行等向け体験プログラムの磨き上げや営業・ 프로모ーション活動の強化
- ・一般向け体験プログラムの利用者増加に向けた広報活動の強化

第4期計画における工程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆海洋スポーツの振興	2020 オリンピック・パラリンピックの受入		合宿等のプロモーション・定着に向けた活動		
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：オリンピック直前合宿の受入やオリンピック開催を契機とした市内のスポーツへの機運の向上へ向けた取り組み及びオリンピック終了後の取り組みの検討 ●県（地域本部等）：関係者間の調整等の支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：企業・大学等へのPR活動、PRパンフレットの作成、合宿補助の検討・実施、ウェブサイトの作成 ●県（地域本部等）：広報等の支援、アドバイザー等制度の活用提案 		
	全国大会等の海洋スポーツ大会誘致				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：競技連盟へのセールス、開催地への視察、視察の受入れ、受入体制の充実 ●県（地域本部等）：関係者等への調整橋渡し支援 				
◆体験型観光の推進	新たな野外体験施設等の整備		各種体験メニューのブラッシュアップ		
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：地権者等との調整施設整備 ●県（地域本部等）：観光施設等緊急整備事業費補助金活用に関する支援、関係者との調整支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市、須崎市観光協会、NPO法人すさきスポーツクラブ：体験メニューの実施、スタッフの研修 ●県（地域本部等）：アドバイザーや研修メニューの活用提案、関係者等への橋渡し 		
	PRの強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市、須崎市観光協会、NPO法人すさきスポーツクラブ：ウェブサイトの充実、マスコミを通じたPR、旅行会社・宿泊施設へのセールス ●県（地域本部等）：広報支援、関連する研修会・セミナーや活用可能な支援制度の紹介 				
	教育旅行等の受入体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市、須崎市観光協会：体験プログラムの造成・磨き上げ、民泊事業についての検討・研修会等の実施、研修や商談会への参加 ●県（地域本部、地域観光課等）：各種制度やセミナーの紹介、近隣市町等関係機関との連携支援 				
◆地域活性化に向けた連携強化	市内事業者や海のまちプロジェクト等との連携強化の検討				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市、須崎市観光協会：市内での宿泊・飲食・土産品購入に向けた取り組み、市内事業者と連携した周遊につながるメニューの提供、集落活動センターうらのうち（浦ノ地区地域自主組織）・県漁協深浦支所等近隣事業者との連携、海のまちプロジェクトとの情報共有、連携方法の検討 ●県（地域本部等）：関係機関との連携支援、連携方法の検討提案等伴走支援 				

削除

高幡地域アクションプラン		分野	林業
AP名 (実施地域)	No.12 四万十川源流等中山間資源活用ビジネスの創出 (中土佐町)		
実施主体	高知精工(株)		
APへの位置づけ	H26.4月		
事業概要	四万十源流域のクロモジ、ヒノキなどの中山間資源を活用したビジネスを創出する。また地元関係機関と連携して商品作りをすることで、地域の魅力をアップさせ、集落の活性化を促す。		

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
商品売上高	483万円 (H30)	451万円		1,000万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆商品開発・市場開拓等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業技術センター及びその共同研究グループにおいて、シャンプー、トリミングウォーター、クロモジ配合茶等を試作(H25～26) ・高知精工(株)と工業技術センターが共同で、低温抽出乾燥試験装置を製作し、クロモジ等の抽出支援を実施(H26～28) ・クロモジ茶(きざみ茶)発売(H26～) ・ヒノキオイルの抽出・販売継続(H26～) ・クロモジ葉と枝を使用した「土佐の黒文字茶」を民間事業者が発売(H29) ・「土佐の黒文字茶」を中土佐町のふるさと納税返礼品として登録(H30～) ・間伐材の葉を使ったヒノキオイルについて、販売先の開拓 <p>◆集落活動センターと連携した新たな特産品の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター(おおのみきた)との連携について検討開始(R元～) ・集落活動センター(おおのみきた)との協議の結果、「キクラゲ事業」については共同事業には取り組まないとした(R2) ・集落活動センター(おおのみきた)の主要な取り組みの「ふるさとおいしいびと」への商品の提供などでの連携(R2～) 	<p><主な成果></p> <p>◆販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製薬会社との取引開始(H28～) ・民間事業者穀粉との連携によるクロモジ茶を発売開始(H29～) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな販路の開拓(ヒノキオイルの在庫拡大) ・ホームページ等の活用による商品PRと販路の拡大

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆商品開発・市場開拓等	ヒノキオイル・クロモジ製品のプロモーション活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●高知精工(株) : ホームページ、SNS等によるPR、販路開拓（製薬会社、海外展開等） ●県（地域本部等） : 販路拡大に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、木材産業振興課への橋渡し、特用林産としてのPR ●中土佐町：地域おこし協力隊を活用した地域資源活用ビジネスの実施 				
◆集落活動センターと連携した新たな特産品の検討	検討・話し合い				
	集落活動センターとの共同事業の推進				
<ul style="list-style-type: none"> ●高知精工(株) : 集落活動センターとの連携方法についての検討・協議 ●県（地域本部等） : 新たな商品作りに向けた産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業を含む）の提案、ニーズや販路の可能性についての情報提供 					

削除

高幡地域アクションプラン

分野

観光

AP名 (実施地域)	No.31 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化 (須崎市) ※地域産業クラスター関連 (宇佐・浦ノ内地区水産資源クラスタープロジェクト)
実施主体	須崎市
APへの 位置づけ	H28.4月
事業概要	海洋スポーツを生かした体験型観光の充実を図るとともに、海洋スポーツに関するレジャー、イベントや合宿を通して交流人口の拡大を目指す。また、海洋スポーツの拠点として、地域住民のさらなる意識醸成にも取り組み、競技人口の増加等、海洋スポーツの振興を通じた地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
交流人口	20,836人 (H30)	23,433人		24,000人

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆海洋スポーツの振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すさきオープンウォータースイミングへの国内外有名選手の招へい、海外一般選手の参加に向けた取り組み (H29～) ・合宿モニター事業の実施 (H29～) ・ナショナルチームによる合宿の実施 (R2) ・ホストタウン申請3カ国 (オーストラリア、チェコ、ハンガリー) (H29) ・合宿誘致用のパンフレット作成 (H30) ・OWS国際主要大会への選考大会へ選定 (R2) <p>◆魅力ある体験メニューの磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海上アスレチック等の体験メニュー導入に向けた備品整備 (H28～) ・海洋スポーツの振興に向けた人員の配置 (H30～地域おこし協力隊2名) ・体験型観光の取り組みである「コモドウラノウチ」のHP作成 (H30) <p>◆地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市内業者と連携した割引サービスの実施 (H30～) ・地域内にある住民組織との連携 (H28～) 	<p>◆施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生拠点整備交付金及び高知県スポーツ推進交付金の活用による整備 (坂内カヌー場バリアフリー化、坂内カヌー場管理棟、大島栈橋設置、大島管理棟、大島親水公園整備、トレーニング棟) (H28～) <p><主な成果></p> <p>◆合宿受入人数 H28: 330人 → R元: 1,185人)</p> <p>◆すさきオープンウォータースイミングの参加者の増加及びインバウンドの取り組み</p> <p>参加者数 H27: 258人 → R元: 322人</p> <p>海外からの来場者数 H27: 0人 → R元: 8人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加に向けた広報活動の強化 ・オリンピック・パラリンピック後の施設等活用の検討
--	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆海洋スポーツの振興	2020 オリンピック・パラリンピックの受入		オリンピック・パラリンピック後の計画の検討		
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：オリンピック直前合宿の受入やオリンピック開催を契機とした市内のスポーツへの機運の向上へ向けた取り組み及びオリンピック終了後の取り組みの検討 ●県（地域本部等）：関係者間の調整等の支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：施設等のさらなる利活用やスポーツ振興及びスポーツツーリズムの促進体制の検討・実施 ●県（地域本部等）：目的に合わせた県のアドバイザー制度や補助制度の活用提案 		
	合宿等のプロモーション活動		合宿定着に向けた内容のブラッシュアップ		
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：企業・大学等へのPR活動、PRパンフレットの作成、合宿補助の検討・実施、ウェブサイトの作成 ●県（地域本部等）：広報等の支援、アドバイザー等制度の活用提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：受入体制の充実、PR活動の実施 ●県（地域本部等）：アドバイザー等制度の活用提案 		
	全国大会等の海洋スポーツ大会誘致				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：競技連盟へのセールス、視察の受入れ、受入体制の充実 ●県（地域本部等）：関係者等への橋渡し 				
◆魅力ある体験メニューの磨き上げ	新たな体験メニューの検討		新たな体験メニューの実践及びブラッシュアップ		
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：体験メニューの検討、情報収集、スタッフの確保 ●県（地域本部等）：産業振興アドバイザー等の活用提案、サービス向上に関する研修等の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：体験メニューの実施、スタッフの研修 ●県（地域本部等）：産業振興アドバイザー等の活用提案、関係者等への橋渡し 		
	PRの強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：ウェブサイトの充実、マスコミを通じたPR、旅行会社・宿泊施設へのセールス ●県（地域本部等）：広報支援、関連する研修会・セミナーの紹介 				
◆地域の活性化	市内事業者等との連携強化の検討				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：市内での宿泊・飲食・土産品購入に向けた取り組み、施設利用者への特典の提供、集落活動センターうちのうち（浦ノ地区地域自主組織）・県漁協深浦支所との連携 ●県（地域本部等）：集落活動センター等関係機関との連携支援 				
◆施設の整備	研修棟の高度化改修				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市：体験学習施設の建設 ●県（地域本部等）：高知県スポーツ推進交付金の活用に係る支援 				

削除

高幡地域アクションプラン

分野

観光

AP名 (実施地域)	No.32 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備 (須崎市) ※地域産業クラスター関連 (宇佐・浦ノ内地区水産資源クラスタープロジェクト)
実施主体	◎須崎市観光協会、NPO 法人すさきスポーツクラブ
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	須崎市への教育旅行や団体旅行を増やすため、地域資源を生かした体験メニューの充実、民泊受入世帯の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 民泊受入世帯数	130世帯 (H30)	132世帯		150世帯
(2) 教育旅行等受入数	3,365人 (H30)	1,824人		4,000人

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆組織体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人化に向けた関係者協議 (H30～) ・法人化に向けた職員の雇用 (R2～2名) <p>◆受入世帯の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町村も含めた研修会の実施 (H30) ・市内の地域住民組織への説明の実施 (H29～R元) ・宇佐・浦ノ内渚泊推進協議会の設置 (H29) ・宇佐・浦ノ内渚泊推進事業を活用した誘致活動の実施 (H30～) ・広域での他市町村との連携の検討 <p>◆体験プログラムの新規造成・磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの作成、旅行会社へのセールス、インストラクター研修の実施 (H30) ・新たなHPの公開 	<p><主な成果></p> <p>◆体験プログラムの造成 H21: 2個 → R元: 29個</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織体制の強化 ・教育旅行等の民泊受入世帯の確保 ・プロモーション活動 ・体験プログラムの磨き上げ ・営業スタッフの確保及び営業活動の強化
--	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆組織体制の強化	職員のスキルアップ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市観光協会： 民泊先進地での視察研修、必要資格の取得、研修の受講、商談会の出展 ●県（地域本部等）： 観光に関する情報提供、セミナー、商談会等の紹介、関係者への橋渡し 				
◆受入世帯の拡充	民泊研修等の開催				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市観光協会： 受入経験の浅い家庭を対象としたサービス向上に向けた研修会の開催、受入世帯拡充のための研修会や地域への説明会の開催 ●県（地域本部等）： 民泊に関する先進事例や活用可能な制度の紹介 				
	近隣市町村等との連携強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市観光協会： 近隣市町村と連携した受入家庭の拡大、集落活動センター等との連携による受入、世帯の組織化の検討 ●県（地域本部等）： 関係機関への橋渡し、集落活動センター等地域との連携補助 				
◆体験プログラムの新規造成・磨き上げ	新たな体験プログラムの検討				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市観光協会： 個人客に対応した体験プログラムの造成、マーケティングの実施・ニーズ把握 ●県（地域本部等）： 体験プログラム造成機関や体験メニュー検討事業者等への橋渡し、制度・セミナー等の紹介 				
	既存のプログラムの磨き上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●須崎市観光協会： 受入先との情報共有、体験旅行先進地での視察研修 ●県（地域本部等）： 体験メニュー磨き上げへ向けた産業振興アドバイザー制度の活用提案、観光関連施策の紹介・提案 				

統合項目（案）

統合前①

高幡地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.18 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進 (中土佐町)
実施主体	◎企画・ど久礼もん企業組合、中土佐町
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	スラリーアイスを活用した付加価値の高い水産物(カツオ、メジカ、ウルメ、アマダイ等)のブランド化を図り、販路を開拓するとともに、町内の他の地域産品を併せて総合的に販売促進に繋げていく。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
商品売上高	1,027万円 (H30)	467万円		2,500万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域物産品の販売促進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産加工場において、県外シェフ等の産地見学会を積極的に受け入れ、高鮮度の鰹のたたきをPR (H27～28) ・カツオのタキ生産の産地視察受入による知名度向上 →関東や関西からの産地視察受入 (20回/年) <p>◆スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した鮮度保持研究施設、スラリーアイス製造装置の整備 (H21) →スラリーアイスを活用した魚価向上対策として実証実験、官能試験の実施 (H21) ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した鮮度保持試験、官能試験の実施販路 (H22) →高鮮度ブランドとして「びんび」ブランドを立ち上げ、「びんび鰹のたたき」「びんびめじか」を販売開始 (H24～) ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した水産加工場の整備(H25～26) ・水揚げ時期に左右されない安定供給のための冷凍商品の開発・販売 (H29～) ・(株)四万十ドラマと連携した「一人商店しまんと」ポータルサイト開始 (R2) 	<p>※実施主体の変更</p> <p>H27～29 中土佐町地域振興公社 H30～ (株)SEAプロジェクト R元～ 企画・ど久礼もん企業組合</p> <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆高鮮度ブランドの確立 ・「びんび鰹のたたき」の商品化 ・「びんびめじか」の商品化 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工職員の慢性的な不足（大口の注文に対応できていない） ・新たな実施主体による鰹を軸とした新展開の推進
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆地域物産品の販売促進活動	地域物産品の販売促進活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●企画・ど久礼もん企業組合： <p>地元内外でのイベント、催事等による販売促進、加工職員、販売営業職員の確保、役場や関連事業所と連携した「地産外商」の検討</p> ●県（地域本部等）： <p>販路拡大に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他各種支援制度に関する情報提供</p> 				
◆スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓	スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓				
	<ul style="list-style-type: none"> ●企画・ど久礼もん企業組合： <p>地域を絞り、こだわりの飲食店に中土佐町ごと売りこんでいく町内外での商談会、イベント等を活用した販売ルートの開拓</p> ●県（地域本部等）： <p>販路拡大に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他各種支援制度に関する情報提供</p> 				
<p>【用語】・官能試験：人間の感覚によって品質の特性を評価する方法。食品や嗜好品などのように、機器を用いた分析では本質的な測定が困難な場合に用いられる。</p> <p>・スラリーアイス：シャーベット状の氷のこと。0℃～-2℃のスラリーアイスで保存した魚介類は、長期間高い鮮度を保持することが分かっている。</p>					

統合前②

高幡地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.21 「中土佐のうまいもん食わしちやお」商品開発プロジェクト (中土佐町)
実施主体	企画・ど久礼もん企業組合
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	<p>地域資源を使った商品開発を継続発展的に進めていくことにより、中土佐町の地域産業の向上を図るとともに大正町市場を中心にした地域の活性化を図り、賑わいづくりの創出を行う。</p> <p>中土佐町の家からの物語性のある商品を開発し、次世代ターゲットとなる若者層の関心を高め、新規顧客を開拓することにより、都市部との交流や消費拡大を図り、漁師のおばちゃん達が売るといふ大正町市場周辺及び中土佐町の価値を高める。</p>

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 開発する商品数	年1商品 (H30)	0商品		年1商品
(2) 商品売上高	2,242万円 (H30)	1,964万円		2,400万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆中土佐の食文化を使った商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鰹を使った加工品の開発 (H21～) ・辛焼味噌カラヤン、なぶらスープカレー、漁師のラー油など、鰹を使った加工品を10種類以上開発 ・市場食堂を拠点とした、消費拡大と賑わいづくり ・ファストフード店「café do kuremon」をオープン (H22) ・名称を「市場食堂ど久礼もん」に変更し、鰹を使ったメニュー(かつお丼、海鮮丼)を投入 (H25) <p>◆地元や都市部等での販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅や直販所、アグリコレットを通じた販売 ・中土佐町ふるさと納税業務を受託 (H28～) ・タキ体験施設「陣や」を拠点とした体験受入スタート (H30～) ・中土佐町ふるさと納税 定期便スタート (R2～) 	<p><主な成果></p> <p>◆商品開発数</p> <p>4商品(H27～R元)</p> <p>(かつお生姜煮、まぐろワタラー油、鰹ラー油濃辛、土佐のジャコ魂)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上アップに向けた商品開発 ・仕入れから製造、販売までの体制構築 (人材不足)
---	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆中土佐の食文化を使った商品開発	中土佐の食文化を使った商品開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●企画・ど久礼もん企業組合： 地域での生産－加工－販売－販促活動の各体制の確立 ●県（地域本部等）： 新商品開発に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆地元や都市部等での販路開拓	販路開拓・拡大、通販やふるさと納税への対応				
	<ul style="list-style-type: none"> ●企画・ど久礼もん企業組合： 販路開拓・拡大（商談会及びアンテナショップ等によるプロモーション活動）、通販やふるさと納税への対応、中土佐の食文化を広めることによる、賑わいづくりの創出 ●県（地域本部等）： 販路拡大に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.18 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進 (中土佐町)
実施主体	企画・ど久礼もん企業組合、中土佐町
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	スラリーアイス等を活用した付加価値の高い水産物のブランド化を図り、販路を開拓することで漁業の活性化に貢献する。また、大正町市場を中心とした中土佐町の漁師町らしい物語性のある商品やサービスを開発し、町内の他の地域産品を併せて総合的に販売促進に繋げていく。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
商品売上高	3,269万円 (H30)	2,460万円		4,900万円

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓（鯉乃國水産）

- ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した水産加工場の整備(H25～26)
- ・水揚げ時期に左右されない安定供給のための冷凍商品の開発・販売（H29～）

※実施主体の変更

- H27～29 中土佐町地域振興公社
- H30～ (株)SEA プロジェクト
- R元～ 企画・ど久礼もん企業組合

◆中土佐町の食文化を使った商品開発と販路開拓

- ・鯉を使った加工品の開発（H21～）
辛焼味噌カラヤン、なぶらスープカレーなど、10種類以上開発
- ・市場食堂を拠点とした、消費拡大と賑わいづくり（H22～）
- ・「市場食堂ど久礼もん」で鯉を使った料理(かつお丼、海鮮丼)をメインに提供
- ・中土佐町ふるさと納税業務を受託（H28～）
- ・タキ体験施設「陣や」を拠点とした体験受入スタート（H30～）

- ・カツオのタタキ生産の産地視察受入による知名度向上（関東や関西からの産地視察受入）

- ・(株)四万十ドラマと連携した「一人商店しまんと」ポータルサイト開始（R2）

<主な成果>

◆高鮮度ブランドの確立

- ・「ぴんぴ鯉のたたき」の商品化
- ・「ぴんぴめじか」の商品化

◆商品開発数

4商品(H27～R元)

(かつお生姜煮、まぐろワタラー油、鯉ラー油濃辛、土佐のジャコ魂)

<課題>

- ・仕入れから製造、販売までの体制構築（人材不足）
- ・鯉を軸とした新展開の推進

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓</p>	<p>スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ●企画・ど久礼もん企業組合： <p>地域を絞り、こだわりの飲食店に中土佐町ごと売りこんでいく町内外での商談会、イベント等を活用した販売ルートの開拓</p> ●県（地域本部等）： <p>販路拡大に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他各種支援制度に関する情報提供</p> 				
<p>◆中土佐町の食文化を使った商品開発と販路開拓</p>	<p>商品開発、販路開拓・拡大、通販やふるさと納税への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ●企画・ど久礼もん企業組合： <p>販路開拓・拡大（商談会及びアンテナショップ等によるプロモーション活動）、通販やふるさと納税への対応、中土佐の食文化を広めることによる、販わいづくりの創出</p> ●県（地域本部等）： <p>販路拡大に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他各種支援制度に関する情報提供</p> 				
<p>【用語】・官能試験：人間の感覚によって品質の特性を評価する方法。食品や嗜好品などのように、機器を用いた分析では本質的な測定が困難な場合に用いられる。</p> <p>・スラリーアイス：シャーベット状の氷のこと。0℃～-2℃のスラリーアイスで保存した魚介類は、長期間高い鮮度を保持することが分かっている。</p>					

修正前

高幡地域アクションプラン

分野

農業

AP名 (実施地域)	No.3 梶原産キジ肉の生産・販売の拡大 (梶原町)
実施主体	◎梶原町雉生産組合、梶原町
APへの位置づけ	H25.9月
事業概要	梶原町内で生産されているキジの品質向上等のために飼育環境の改善を行い、飲食店や百貨店等への販路拡大の取り組みを行うとともに町内飲食店での消費の向上を図る。また、生産者の所得向上を図り、後継者の育成を行う。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
販売額	1,458万円 (H30)	1,659万円	1,429万円	2,200万円

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆品質の向上と出荷体制の強化

- ・餌へのミネラル投入（死亡等が改善）（H25）
- ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した熟成用恒温高湿庫・冷凍庫の導入（H27）

◆販路開拓

- ・県主催の畜産商談会への出展（H27～28）
- ・大阪での商談会「土佐の宴」への出展（H28）
- ・県主催の県産品商談会への出展（H28～R元）
- ・まると高知商談会への出展（H30）
- ・県版 HACCP 第2ステージ認証取得に向けた取り組み（H28～）
- ・熟成肉等の業務筋等への直接営業
- ・産業振興アドバイザー招へい（H30、R元）
- ・SNS等を活用した情報発信
- ・町外で開催する「ゆすはらフェア」への出展

◆キジ肉消費向上

- ・町内でキジ料理を提供する店舗を紹介するパンフレット「召ませ雲の上のキジグルメ」の作成・配布（H26～）
- ・梶原町観光開きやグルメまつり等の町内イベントへの出展

<主な成果>

◆熟成肉の売上

H27：0円 → H28～30 累計：42.8万円
R元：39万円

◆取引件数

H29：65件 → R元：85件

<課題>

- ・営業力の強化
- ・ガラを活用した新たな販路の確保
- ・認知度及びブランド力の向上
- ・担い手の確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆品質の向上と出荷体制の強化	品質の向上と出荷体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 梶原町雉生産組合： <ul style="list-style-type: none"> 熟成肉の製造、生産者の維持、孵化率の向上、県版 HACCP 認証取得を生かした品質づくり（危害要因除去・衛生管理の構築） ● 県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 梶原町、西部家畜保健衛生所との連携・情報共有 				
◆販路開拓	県内及び県外に向けた営業力の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 梶原町雉生産組合： <ul style="list-style-type: none"> 販売促進用グッズの磨き上げ、県内・外事業者等のガラ等の業務用商品ニーズの情報収集、商談会への出展（高級ホテル等への熟成肉の PR）、産業振興アドバイザーの指導による営業担当の人材育成 ● 県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザーの活用提案、商談会等の紹介、関係者への橋渡し 				
	SNS を活用した個人顧客の獲得				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 梶原町雉生産組合： <ul style="list-style-type: none"> 販促ツールの作成、専門家を通じた情報発信のスキルアップ、SNS を活用した情報発信 ● 県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> SNS を強みとする産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介 				
◆キジ肉消費向上	各種イベントでの販売・梶原産キジ肉の認知度向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 梶原町： <ul style="list-style-type: none"> 高知市内で開催している「ゆすはらフェア」等町外のイベント等への出展依頼、マスコミを通じた PR ● 県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 地域本部との情報共有により、他地域のイベント（集落活動センター主催を含む）への出展依頼 				
<p>【用語】 ・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.3 梶原産キジ肉の加工・販売の拡大 (梶原町)
実施主体	◎(株)四万川、梶原町
AP への 位置づけ	H25.9月
事業概要	梶原町内で生産されているキジ肉の加工品について、県内外の飲食店や個人への販売拡大の取り組みを行うとともに町内飲食店での消費の向上を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R 2	R 3	R 5
販売額	1,458 万円 (H30)	1,429 万円		2,200 万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆品質の向上と出荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・餌へのミネラル投入（死亡等が改善）（H25） ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した熟成用恒温高湿庫・冷凍庫の導入（H27） <p>◆販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県主催の畜産商談会への出展（H27～28） ・大阪での商談会「土佐の宴」への出展（H28） ・県主催の県産品商談会への出展（H28～R 元） ・まるごと高知商談会への出展（H30） ・県版 HACCP 第 2 ステージ認証取得に向けた取り組み（H28～） ・熟成肉等の業務筋等への直接営業 ・産業振興アドバイザー招へい（H30、R 元） ・SNS 等を活用した情報発信 ・町外で開催する「ゆすはらフェア」への出展 <p>◆キジ肉消費向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内でキジ料理を提供する店舗を紹介するパンフレット「召ませ雲の上のキジグルメ」の作成・配布（H26～） ・梶原町観光開きやグルメまつり等の町内イベントへの出展 	<p><主な成果></p> <p>◆熟成肉の売上</p> <p>H27：0 円 → H28～30 累計：42.8 万円 R 元：39 万円 →R2：29 万円</p> <p>◆取引件数</p> <p>H29：65 件 → R 元：85 件→R2：86 件</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業力の強化 ・ガラを活用した新たな販路の確保 ・認知度及びブランド力の向上 ・生産者の減少に伴う担い手の確保 ・設備機器及び加工施設の老朽化
---	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆品質の向上と出荷体制の強化	品質の向上と出荷体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万川： 熟成肉の製造、生産者の維持、孵化率の向上、県版 HACCP 認証取得を生かした品質づくり（危害要因除去・衛生管理の構築） ●県（地域本部等）： 梶原町、西部家畜保健衛生所との連携・情報共有 				
◆販路開拓	加工施設の整備・運営				
	<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町：施設整備の検討・実施 ●県：検討会議への参加・助言、事業計画について産業振興アドバイザーの活用 				
◆品質の向上と出荷体制の強化	県内及び県外に向けた営業力の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万川： 販売促進用グッズの磨き上げ、県内・外事業者等のガラ等の業務用商品ニーズの情報収集、商談会への出展（高級ホテル等への熟成肉のPR）、産業振興アドバイザーの指導による営業担当の人材育成 ●県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、商談会等の紹介、関係者への橋渡し 				
	SNS を活用した個人顧客の獲得				
◆キジ肉消費向上	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万川： 販促ツールの作成、専門家を通じた情報発信のスキルアップ、SNS を活用した情報発信 ●県（地域本部等）： SNS を強みとする産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介 				
	各種イベントでの販売・梶原産キジ肉の認知度向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町： 高知市内で開催している「ゆすはらフェア」等町外のイベント等への出展依頼、マスコミを通じたPR ●県（地域本部等）： 地域本部との情報共有により、他地域のイベント（集落活動センター主催を含む）への出展依頼 				
<p>【用語】 ・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

修正前

高幡地域アクションプラン

分野

商工業

AP 名 (実施地域)	No.25 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備 (四万十町) ※地域産業クラスター関連 (四万十のうまい豚クラスタープロジェクト)
実施主体	◎四万十町、(株)あぐり窪川
AP への 位置づけ	H24.4月
事業概要	四万十町の地域資源を広く活用し付加価値を付けた加工品の開発に取り組むとともに、高品質で安定的な供給体制を確保できる拠点的な加工施設を整備することにより、農林水産業所得の向上と雇用の確保につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
豚まん等販売額	9,300万円 (H30)	9,880万円		2.33億円

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆加工施設の整備

- ・加工施設整備に向けた協議、打合せ (H29～30)
- ・産振補助金を活用した、町内産材を使用した豚まん・シューマイ等の増産にかかる新加工場の整備 (R元)
- ・衛生管理の協会に向け、県版 HACCP 第3ステージ認証取得に向けた取り組み (R元)
- ・豚まん・シューマイ等の新加工場稼働 (R2)
- ・県版 HACCP 第3ステージ認証取得 (R2)
- ・菓子・スイーツ製造の加工場改修 (R2)

◆商品開発と販路開拓

- ・「あぐり窪川の豚まん」開発 (H11)
- ・道の駅直販所他、県内外の主要取引先約20社程度に販売 (その他小口取引先多数)
- ・自社ホームページ改修開始 (R2)

◆地域資源の発掘と活用

- ・生姜について高知大学との連携により成分分析や調査研究、市場調査を実施(H26～29)
- ・枝豆の試験的栽培から販売流通、生産経費や流通価格及びニーズの調査(H26～28)

＜主な成果＞

- ◆雇用の創出 (加工課の従業者)
H29 : 9人 → R元 : 13人
- ◆豚まん・シューマイの販売額
H24 : 5,800万円 → H30 : 9,300万円

＜課題＞

- ・売上アップに向けた新たな商品開発
- ・販路拡大に向けた計画的な販売促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 加工施設の整備	旧加工場改修				
	新商品のプロモーション活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(株)あぐり窪川： 県版 HACCP 第3ステージ認証取得 ● 県（地域本部等）： 関連セミナー等の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(株)あぐり窪川： 試作品づくり、商談会等への出展、プロモーション活動の実施 ● 県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを獲得するための産業振興アドバイザーの活用提案、高知県地産外商公社への橋渡し支援 		
◆ 商品開発と販路開拓	県外中心の営業活動		県内のルートセールス展開		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(株)あぐり窪川： 新加工場での着実な増産と主要取引先への販売、コンセプトづくり、試作品づくり ● 県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを獲得するための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報 		<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(株)あぐり窪川： 保冷車・蓄冷車を導入した県内のルートセールスの展開 		
	SNSを活用した個人顧客の獲得				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(株)あぐり窪川： 販促ツールの作成、専門家を通じた情報発信のスキルアップ、ウェブサイトの開設 ● 県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介 				
◆ 地域資源の発掘と活用	地域資源の発掘				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、各関係機関（JA、普及所等）： 加工用農林水産物の生産及び集出荷体制の構築、新たな地域資源の掘り起こし 等 ● 県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介 				
<p>【用語】 ・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

高幡地域アクションプラン		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.24 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備 (四万十町) ※地域産業クラスター関連 (四万十のうまい豚クラスタープロジェクト)		
実施主体	◎四万十町、(株)あぐり窪川		
APへの位置づけ	H24.4月		
事業概要	四万十町の地域資源を広く活用し付加価値を付けた加工品の開発に取り組むとともに、高品質で安定的な供給体制を確保できる拠点的な加工施設を整備することにより、農林水産業所得の向上と雇用の確保につなげる。		

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
豚まん等販売額	9,300万円 (H30)	1.26億円		2.33億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆加工施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設整備に向けた協議、打合せ (H29~30) ・産振補助金を活用した、町内産材を使用した豚まん・シューマイ等の増産にかかる新加工場の整備 (R元) ・衛生管理の協会に向け、県版 HACCP 第3ステージ認証取得に向けた取り組み (R元) ・<u>新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した加工機械の整備 (R2)</u> ・県版 HACCP 第3ステージ認証取得 (R2) ・菓子・スイーツ製造の加工場改修 (R2) <p>◆商品開発と販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あぐり窪川の豚まん」開発 (H11) ・道の駅直販所他、県内外の主要取引先約20社程度に販売 (その他小口取引先多数) ・自社ホームページ改修 (R2) ・<u>豚まんを化学調味料及び着色料不使用に、シューマイを化学調味料不使用にリニューアル (R3)</u> <p>◆地域資源の発掘と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生姜について高知大学との連携により成分分析や調査研究、市場調査を実施(H26~29) 	<ul style="list-style-type: none"> ・枝豆の試験的栽培から販売流通、生産経費や流通価格及びニーズの調査(H26~28) <p><主な成果></p> <p>◆雇用の創出 (加工課の従業者)</p> <p>H29 : 9人 → R2 : 14人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上アップに向けた新たな商品開発 ・販路拡大に向けた計画的な販売促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 加工施設の整備	旧加工場改修				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(株)あぐり窪川： 県版 HACCP 第3ステージ認証取得 ● 県（地域本部等）： 関連セミナー等の紹介 				
◆ 加工施設の整備	新商品のプロモーション活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(株)あぐり窪川： 試作品づくり、商談会等への出展、プロモーション活動の実施 ● 県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを獲得するための産業振興アドバイザーの活用提案、高知県地産外商公社への橋渡し支援 				
◆ 商品開発と販路開拓	営業活動の展開				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(株)あぐり窪川： 新加工場での着実な増産と主要取引先への販売、外販強化のための戦略づくりと商品の磨き上げ ● 県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
	SNSを活用した個人顧客の獲得				
◆ 商品開発と販路開拓	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(株)あぐり窪川： 販促ツールの作成、専門家を通じた情報発信のスキルアップ、ウェブサイトの開設 ● 県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介 				
	地域資源の発掘				
◆ 地域資源の発掘と活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、各関係機関（JA、普及所等）： 加工用農林水産物の生産及び集出荷体制の構築、新たな地域資源の掘り起こし 等 ● 県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介 				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

修正前

高幡地域アクションプラン

分野

商工業

AP 名 (実施地域)	No.26 四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大 (四万十町)
実施主体	(株)ぶらうん
AP への 位置づけ	H29.9月
事業概要	養鶏農家が自社鶏卵と地元産の食材を使用した加工品の製造・販売を行う6次産業化に取り組み、販路開拓を行うことで売上アップと新たな雇用の創出を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
加工品売上高	5,210 万円 (H30)	6,925 万円		1.27 億円

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆施設整備

- ・産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業）を活用した新規事業に関する市場調査等を実施（H29）
- ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した新加工場の整備（H28）
- ・衛生管理の強化に向け、県版 HACCP 第 2 ステージ認証取得（R 元）
- ・高知市（高須）に 2 号店出店（R 元）

◆商品開発

- ・主力商品「こっこぶりん」が高知家のうまいもの大賞 2018 で 3 位に入賞（H30）
- ・新商品「ごちそうたまごどうふ」販売開始（H30）
- ・新商品「ごちそうたまごどうふ」が高知家のうまいもの大賞 2019 で大賞受賞（R 元）

◆販路開拓

- ・県内外の商談会等、イベント等への積極的な出展
- ・高知市に 2 号店を出店（R 元）

<主な成果>

◆雇用の創出

H28 : 15 人 → R 元 : 22 人

<課題>

- ・生産、販売体制の強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆商品開発	<p>新規（惣菜）部門の商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ぶらうん： <ul style="list-style-type: none"> 催事への出展、商談会等への出展によるバイヤー、消費者の嗜好把握、商品作りのセミナー等の受講、専門家のアドバイスによる新商品開発 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
	◆販路開拓		<p>2号店の営業安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ぶらうん： <ul style="list-style-type: none"> ハローワーク等を通じた1号店及び2号店の人材確保、移動販売車の導入検討 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 既存商品のブラッシュアップのための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 		<p>県内での移動販売の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ぶらうん： <ul style="list-style-type: none"> 移動販売車の導入による対面販売の開始
	<p>営業活動による販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ぶらうん： <ul style="list-style-type: none"> 催事への出展、商談会等への出展 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>【用語】 ・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebook などがある。</p>					

AP名 (実施地域)	No.25 四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大 (四万十町)
実施主体	(株)ぶらうん
APへの位置づけ	H29.9月
事業概要	養鶏農家が自社鶏卵と地元産の食材を使用した加工品の製造・販売を行う6次産業化に取り組み、販路開拓を行うことで売上アップと新たな雇用の創出を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
加工品売上高	5,210万円 (H30)	7,635万円		1.27億円

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆施設整備

- ・産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業）を活用した新規事業に関する市場調査等を実施（H29）
- ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した新加工場の整備（H28）
- ・衛生管理の強化に向け、県版 HACCP 第2ステージ認証取得（R元）
- ・高知市（高須）に2号店出店（R元）
- ・香南市（野市）に2号店を移転（R3）
- ・県版 HACCP 第3ステージ認証取得（R3）

◆商品開発

- ・主力商品「こっこぶりん」が高知家のうまいもの大賞2018で3位に入賞（H30）
- ・新商品「ごちそうたまごどうふ」販売開始（H30）
- ・新商品「ごちそうたまごどうふ」が高知家のうまいもの大賞2019で大賞受賞及び第34回高知県地場産業奨励賞受賞（R元）

◆販路開拓

- ・県内外の商談会等、イベント等への積極的な出展
- ・高知市に2号店を出店（R元）
- ・香南市に2号店を移転（R3）

<主な成果>

◆雇用の創出

H28：15人 → R2：22人

<課題>

- ・生産、販売体制の強化

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆商品開発	新規（惣菜）部門の商品開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ぶらうん： 催事への出展、商談会等への出展によるバイヤー、消費者の嗜好把握、商品作りのセミナー等の受講、専門家のアドバイスによる新商品開発 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆販路開拓	ペットビジネス事業の検討				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ぶらうん： 催事への出展、商談会等への出展によるバイヤー、消費者の嗜好把握、商品作りのセミナー等の受講、専門家のアドバイスによる新商品開発 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆販路開拓	2号店の営業安定				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ぶらうん： ハローワーク等を通じた1号店及び2号店の人材確保 ●県（地域本部等）： 既存商品のブラッシュアップのための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆販路開拓	営業活動による販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ぶらうん： 催事への出展、商談会等への出展 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>【用語】 ・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

修正前

高幡地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.29 四万十うなぎを活用した加工場整備と販路拡大 (四万十町)
実施主体	四万十うなぎ(株)
APへの 位置づけ	R3.4月
事業概要	輸出にも対応した高度な衛生管理を満たし、かつ自社での一貫した加工が可能な施設整備をすることにより、雇用を創出するとともに、新商品の開発や既存商品も含めた国内外への販路拡大によって「四万十うなぎ」の知名度のさらなる向上を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
販売額	9億円 (R2見込)	—		11.2億円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現加工場で県版 HACCP 第2ステージ認証取得 (H29.10月) <p>◆商品開発・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の商談会、イベント等への積極的な出展 ・タイ(バンコク)に直営店を出店(R元.3月) 	<p><主な成果></p> <p>◆雇用の創出</p> <p>R2: 19人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出のための衛生環境整備 ・加工(一部)委託によるコスト高
--	--

第4期計画における工程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆施設整備			農地転用等	加工場整備	加工場稼働
		<ul style="list-style-type: none"> ●四万十うなぎ(株) : 農地転用、用地取得など ●県(地域本部、地産地消・外商課等) : 加工場整備にかかる各種事業の支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●四万十うなぎ(株) : 各種衛生認証の取得など ●県(地域本部、地産地消・外商課等) : 衛生認証取得関連のセミナー等の紹介 	
◆商品開発・販売			新商品の開発・検討		
			<ul style="list-style-type: none"> ●四万十うなぎ(株) : 四万十うなぎを活用した新たな商品開発、加工の段階で出るB級品の商品化検討など ●県(地域本部、地産地消・外商課等) : 産業振興アドバイザーの活用提案、商品のブラッシュアップ関連のセミナー紹介 その他、各種支援制度に関する情報提供 		
			(国内外向け) 販促活動		
			<ul style="list-style-type: none"> ●四万十うなぎ(株) : 催事および商談会等への出展 ●県(地域本部、地産地消・外商課等) : 外商公社へのつなぎ、商談会等の開催周知、その他、各種支援制度に関する情報提供 		
◆人材確保・育成				加工場の人材確保	
			<ul style="list-style-type: none"> ●四万十うなぎ(株) : ハローワーク等を通じた加工場の人材確保 ●県(地域本部等) : 人材確保センターへのつなぎ、その他、各種支援制度に関する情報提供 		

修正後

高幡地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.28 四万十うなぎを活用した加工場整備と販路拡大 (四万十町)
実施主体	四万十うなぎ(株)
APへの 位置づけ	R3.4月
事業概要	輸出にも対応した高度な衛生管理を満たし、かつ自社での一貫した加工が可能な施設整備をすることにより、雇用を創出するとともに、新商品の開発や既存商品も含めた国内外への販路拡大によって「四万十うなぎ」の知名度のさらなる向上を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
販売額	9億円 (R2見込)	7.5億円		11.2億円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現加工場で県版 HACCP 第2ステージ認証取得 (H29.10月) <p>◆商品開発・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の商談会、イベント等への積極的な出展 ・タイ(バンコク)に直営店を出店(R元.3月) ・新商品「うなぎご飯の素」を開発(R2) ・「四万十うなぎ白焼」が高知家のうまいもの大賞2022で優秀賞受賞(R3) 	<p><主な成果></p> <p>◆雇用の創出</p> <p>R2: 19人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出のための衛生環境整備 ・加工(一部)委託によるコスト高
---	--

第4期計画における工程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆施設整備					
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十なぎ(株) : 農地転用、用地取得など加工場整備に向けた取組 ●県(地域本部、地産地消・外商課等) : 加工場整備にかかる各種事業の支援 				
◆商品開発・販売					
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十なぎ(株) : 四万十なぎを活用した新たな商品開発、加工の段階で出るB級品の商品化検討など ●県(地域本部、地産地消・外商課等) : 産業振興アドバイザーの活用提案、商品のブラッシュアップ関連のセミナー紹介 その他、各種支援制度に関する情報提供 				
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十なぎ(株) : 催事および商談会等への出展 ●県(地域本部、地産地消・外商課等) : 外商会社へのつなぎ、商談会等の開催周知、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆人材確保・育成					
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十なぎ(株) : ハローワーク等を通じた加工場の人材確保 ●県(地域本部等) : 人材確保センターへのつなぎ、その他、各種支援制度に関する情報提供 				

修正前

高幡地域アクションプラン		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.35 梶原町の体験型・滞在型観光の推進 (梶原町)		
実施主体	◎梶原町商工会、梶原町、松原まろうど会、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	「坂本龍馬脱藩の郷」としての取り組みや、まち歩きやセラピーロードをはじめとした体験型観光を継続しながら、隈研吾施設を活用した新たな取り組みを推進する。また、住民主体のおもてなし、受入態勢や基盤の一層の充実を図り、環境・いやしのまち梶原の取り組みと併せて旅行会社、企業、大学などへの誘致活動のほか、海外旅行者の誘致を図り、体験型・滞在型観光を推進する。		

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 宿泊者数	8,285人 (H30)	8,279人		9,000人
(2) 施設利用者数	96,236人 (H30)	93,459人		105,000人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町立歴史民俗資料館「梶原千百年物語り」のリニューアルオープン（H29） ・実施事業者が土佐の観光創生塾を受講（H30～） ・観光案内施設まろうど館及び梶原千百年物語り前駐車場の整備 <p>◆誘客活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社への誘客活動（通年） ・「環境の町」「龍馬脱藩の里」「セラピー基地・ロードによるいやしのまち」等を前面に出した旅行会社、企業、大学等へのセールスを実施 ・隈研吾ミュージアムの整備（R元） ・隈研吾建築案内ガイド開始（R2.6～） <p>◆森林セラピー受入態勢の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原町観光クラスター協議会開催（H30：3回） ・久保谷森林セラピーロードでの新緑まつり・紅葉まつりの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・久保谷森林セラピーロードの案内板及びパンフレットを多言語化にリニューアル（H30） ・久保谷セラピーロードガイドウォーク（R元：285人） <p>◆受入基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県観光拠点等整備事業を活用し、久保谷森林セラピーロードの増水時にも安全に渡ることができる架橋建設実施 <p><主な成果></p> <p>◆入込数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原千百年物語り来館者数 H29：6,459人 → H30：7,682人 → R元：3,759人 ・太郎川公園内施設利用者数 H27：110,914人 → H30：134,500人 → R元：93,459人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光情報の発信・誘客活動の強化 ・観光客の受入態勢の整備

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実	<p>梶原町の自然や文化を生かす取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ●梶原町商工会、梶原町、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会： <ul style="list-style-type: none"> 津野山神楽等ゆすはら座での地域資源を生かした体験プログラムの造成・磨き上げ、観光協会設立の検討、インバウンド対応のための取り組みを視野に入れたゆすはら座改修の検討、土佐の観光創生塾や関係する研修等の受講 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 体験プログラムについて産業振興アドバイザー等の活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供、土佐の観光創生塾の受講、関係機関への橋渡し 				
◆誘客活動	<p>誘客のための情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ●梶原町： <ul style="list-style-type: none"> 「環境のまち」「龍馬脱藩の郷」「セラピーロードによるいやしのまち」等を前面に出した旅行会社、企業、大学等へのセールス及び販促ツールの作成、専門家を通じた情報発信のスキルアップ、ウェブサイトの開設 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> SNSを活用するための産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介 <p>隈研吾氏設計による建築物を核とした観光資源の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●梶原町： <ul style="list-style-type: none"> オリジナル土産の開発、隈研吾氏設計の町内建築物を紹介する映像やパンフレットによるPR ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 土産物の開発等に関するアドバイザーの活用、関係機関への橋渡し 				
◆森林セラピー受入態勢の強化	<p>森林セラピーの受入態勢の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●梶原町、松原まろうど会： <ul style="list-style-type: none"> 久保谷森林セラピーロードの登録ガイド育成・スキルアップ 				
◆受入基盤の整備 (1) ホテル・道の駅	<p>実施設計 → 施設整備（建築工事） → オープン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●梶原町、商工会： <ul style="list-style-type: none"> 雲の上のホテル・道の駅のリニューアルオープンに向けた基盤整備 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 整備等に向けた会議への参加、アドバイザーの導入提案、関係機関への橋渡し 				
(2) 太郎川公園エリア	<p>運営組織の設立</p> <p>太郎川公園整備順次実施（個別に設計・施工）</p>				
<p>【用語】・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

AP名 (実施地域)	No.34 梶原町の体験型・滞在型観光の推進 (梶原町)
実施主体	◎ゆすはら雲の上観光協会、梶原町商工会、梶原町、松原まろうど会、坂本龍馬脱藩の郷ゆすはらであいの会
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	「坂本龍馬脱藩の郷」としての取り組みや、まち歩きやセラピーロードをはじめとした体験型観光を継続しながら、隈研吾施設を活用した新たな取り組みを推進する。また、住民主体のおもてなし、受入態勢や基盤の一層の充実を図り、環境・いやしのまち梶原の取り組みと併せて旅行会社、企業、大学などへの誘致活動のほか、海外旅行者の誘致を図り、体験型・滞在型観光を推進する。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 宿泊者数	8,285人 (H30)	8,279人		4,000人
(2) 施設利用者数	96,236人 (H30)	93,459人		103,000人

※(1)(2)とも R3.10月から雲の上ホテル、レストラン休館のため、R4年度以降、目標から除く。

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町立歴史民俗資料館「梶原千百年物語り」のリニューアルオープン (H29) <p>◆誘客活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社への誘客活動 (通年) ・「環境の町」「龍馬脱藩の里」「セラピー基地・ロードによるいやしのまち」等を前面に出した旅行会社、企業、大学等へのセールスを実施 ・隈研吾ミュージアムの整備 (R元) ・隈研吾建築案内ガイド開始 (R2.6～) <p>◆森林セラピー受入態勢の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原町観光クラスター協議会開催 (H30:3回) ・久保谷森林セラピーロードでの新緑まつり・紅葉まつりの開催 ・久保谷森林セラピーロードの案内板及びパンフレットを多言語化にリニューアル (H30) ・久保谷セラピーロードガイドウォーク (R元:285人) 	<p>◆受入基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県観光拠点等整備事業を活用し、久保谷森林セラピーロードの増水時にも安全に渡ることができる架橋建設実施 ・雲の上のホテル・雲の上の市場解体 (R3.10～) ・公園エリア (キャンプ場) の改修 ・雲の上の市場を温泉内に開設 (R3.11～) ・(一社)ゆすはら雲の上観光協会設立(R3.4) <p><主な成果></p> <p>◆入込数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原千百年物語り来館者数 H29:6,459人 → H30:7,682人 → R元:3,759人 ・太郎川公園内施設利用者数 H27:110,914人 → H30:134,500人 → R元:93,459人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光情報の発信・誘客活動の強化 ・観光客の受入態勢の整備
---	---

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実</p>	梶原町の自然や文化を生かす取り組み				
	<ul style="list-style-type: none"> ●ゆすはら雲の上観光協会、梶原町商工会、梶原町、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会： 津野山神楽等ゆすはら座での地域資源を生かした体験プログラムの造成・磨き上げ、観光協会設立の検討、インバウンド対応のための取り組みを視野に入れたゆすはら座改修の検討、土佐の観光創生塾や関係する研修等の受講 ●県（地域本部等）： 体験プログラムについて産業振興アドバイザー等の活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供、土佐の観光創生塾の受講、関係機関への橋渡し 				
<p>◆誘客活動</p>	誘客のための情報発信				
	<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町： 「環境のまち」「龍馬脱藩の郷」「セラピーロードによるいやしのまち」等を前面に出した旅行会社、企業、大学等へのセールス及び販促ツールの作成、専門家を通じた情報発信のスキルアップ、ウェブサイトの開設 ●県（地域本部等）： SNSを活用するための産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介 				
	隈研吾氏設計による建築物を核とした観光資源の磨き上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町： オリジナル土産の開発、隈研吾氏設計の町内建築物を紹介する映像やパンフレットによるPR ●県（地域本部等）： 土産物の開発等に関するアドバイザーの活用、関係機関への橋渡し 				
<p>◆森林セラピー受入態勢の強化</p>	森林セラピーの受入態勢の充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町、松原まろうど会： 久保谷森林セラピーロードの登録ガイド育成・スキルアップ 				
<p>◆受入基盤の整備 （1）ホテル・道の駅 （2）太郎川公園エリア</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px;">実施設計</div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px;">施設整備（建築工事）</div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px;">オープン</div> </div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●梶原町、商工会、ゆすはら雲の上観光協会： 雲の上のホテル・道の駅のリニューアルオープンに向けた基盤整備 ●県（地域本部等）： 整備等に向けた会議への参加、アドバイザーの導入提案、関係機関への橋渡し 				
	運営組織の設立				
	太郎川公園整備順次実施（個別に設計・施工）				
<p>【用語】・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

修正前

高幡地域アクションプラン

分野

観光

AP名 (実施地域)	No.40 四万十町オアシス風観光交流拠点施設整備事業 (四万十町)
実施主体	◎四万十町、(株)あぐり窪川、地域団体
APへの 位置づけ	R2.4月
事業概要	高速道路の延伸を見据え、窪川中央インターから窪川地区、大正地区、十和地区への交流人口の拡大など人の流れをつくるため、花などをテーマとした全町的な展開で、事業・拠点施設整備を実施することにより、新たな観光客等を含め町内での滞留・滞在を推進する。また、町内への周遊促進による商工・観光事業者の所得向上と地域の活性化に繋げる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
道の駅※集客数	43.3万人 (H30)	42.9万人		54万人

※道の駅あぐり窪川、道の駅四万十大正、道の駅四万十とおわ

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆受入態勢の充実・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十博関連イベント/体験プログラム造成（継続） ・自然体験型観光キャンペーン関連 町内施設整備や体験プログラムの造成（H29～） ・インバウンド観光推進事業（H30～） <p>◆観光交流拠点の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点施設等整備事業（継続） ・こいのぼり公園再生整備事業（R元） ・四万十川アドベンチャーパーク整備事業（R元～） (ジップライン) <p>◆周遊、滞留・滞在型観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十観光磨き上げ事業の実施（継続） ・幕末維新博連携事業の実施（H29～30） ・自然体験型観光キャンペーン関連事業の実施（R元～） ・町内各事業所と連携した町内周遊企画の実施（R元～） ・観光列車活用事業（R元～） 	<p><主な成果></p> <p>◆主要観光施設等利用者数 H22：80万人 → R元：94.3万人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内での周遊、滞留・滞在時間の延長による地域への経済効果を生み出す取り組み ・観光資源の磨き上げ、交流人口拡大につなげるための仕掛けや体制の強化 ・総合交流拠点である、町内3か所の道の駅の利用者の増加とともに3か所を拠点とした各地域への周遊・集客による地域経済の活性化につながる事業の実施
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 受入態勢の充実・整備	<p>受入態勢の充実・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(一社)四万十町観光協会、四万十町商工会等： 四万十川流域等での交流拠点（道の駅3か所を含む）核とした周遊ルートを作成、旅行会社へのセールス、旅行雑誌等へのプロモーション ● 四万十町、地域団体等： オアシス風観光交流拠点の活用・運営等について、地域団体との調整・協議、町内各地にある既存の取り組みの磨き上げ、連携した取り組み協議 ● 県（地域本部等）： 魅力ある周遊ルートや受入態勢整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆ 観光交流拠点の整備	<p>基本計画策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町等： オアシス風観光交流拠点施設基本計画策定 ● 県（地域本部等）： 拠点施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案 	<p>施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町等： オアシス風観光交流拠点施設整備工事 ● 県（地域本部等）： 拠点施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 	<p>施設の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町等： 町内他施設との連携による施設の運営 		
	<p>花をテーマにした施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町等： 各地域での花をテーマとした施設の整備（R2～） ● 県（地域本部等）： 施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 	<p>施設の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町等： 町内他施設との連携による施設の運営 			
◆ 周遊、滞留・滞在型観光の推進	<p>情報発信力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(一社)四万十町観光協会、四万十町商工会等： 観光案内板設置等によるPR、道の駅等拠点との連携による情報発信、町内周遊観光促進事業の実施 ● 県（地域本部等）： 滞在型観光推進のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				

高幡地域アクションプラン		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.39 四万十町オアシス風観光交流拠点施設整備事業 (四万十町)		
実施主体	◎四万十町、(株)あぐり窪川、地域団体		
APへの位置づけ	R2.4月		
事業概要	高速道路の延伸を見据え、窪川中央インターから窪川地区、大正地区、十和地区への交流人口の拡大など人の流れをつくるため、花などをテーマとした全町的な展開で、事業・拠点施設整備を実施することにより、新たな観光客等を含め町内での滞留・滞在を推進する。また、町内への周遊促進による商工・観光事業者の所得向上と地域の活性化に繋げる。		

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
道の駅※集客数	43.3万人 (H30)	34.7万人		54万人

※道の駅あぐり窪川、道の駅四万十大正、道の駅四万十とおわ

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆受入態勢の充実・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十博関連イベント/体験プログラム造成（継続） ・自然体験型観光キャンペーン関連 町内施設整備や体験プログラムの造成（H29～） ・インバウンド観光推進事業（H30～） <p>◆観光交流拠点の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点施設等整備事業（継続） ・こいのぼり公園再生整備事業（R元） ・四万十川アドベンチャーパーク整備事業（R元～） (ジップライン) ・基本構想策定に向けた実行可能性調査の実施 (R2) <p>◆周遊、滞留・滞在型観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十観光磨き上げ事業の実施（継続） ・幕末維新博連携事業の実施（H29～30） ・自然体験型観光キャンペーン関連事業の実施（R元～） ・町内各事業所と連携した町内周遊企画の実施（R元～） ・観光列車活用事業（R元～） 	<p><主な成果></p> <p>◆主要観光施設等利用者数 H22：80万人 → R2：34.7万人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内での周遊、滞留・滞在時間の延長による地域への経済効果を生み出す取り組み ・観光資源の磨き上げ、交流人口拡大につなげるための仕掛けや体制の強化 ・総合交流拠点である、町内3か所の道の駅の利用者の増加とともに3か所を拠点とした各地域への周遊・集客による地域経済の活性化につながる事業の実施

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 受入態勢の充実・整備	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">受入態勢の充実・整備</div> <div style="border: 1px solid #0070c0; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(一社)四万十町観光協会、四万十町商工会 等： 四万十川流域等での交流拠点（道の駅3か所を含む）核とした周遊ルート作成、旅行会社へのセールス、旅行雑誌等へのプロモーション ● 四万十町、地域団体等： オアシス風観光交流拠点の活用・運営等について、地域団体との調整・協議、町内各地にある既存の取り組みの磨き上げ、連携した取り組み協議 ● 県（地域本部等）： 魅力ある周遊ルートや受入態勢整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 </div>				
◆ 観光交流拠点の整備	<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px;">基本計画策定</div> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px;">施設整備</div> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px;">施設の運営</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid #0070c0; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町等： オアシス風観光交流拠点施設基本計画策定 ● 県（地域本部等）： 拠点施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案 </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid #0070c0; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町等：オアシス風観光交流拠点施設整備工事 ● 県（地域本部等）： 拠点施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid #0070c0; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町等： 町内他施設との連携による施設の運営 </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">花をテーマにした施設整備</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%; border: 1px solid #0070c0; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町等： 各地域での花をテーマとした施設の整備（R2～） ● 県（地域本部等）： 施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid #0070c0; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">施設の運営</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町等： 町内他施設との連携による施設の運営 </div> </div> </div>				
◆ 周遊、滞留・滞在型観光の推進	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">情報発信力の強化</div> <div style="border: 1px solid #0070c0; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 四万十町、(一社)四万十町観光協会、四万十町商工会等： 観光案内板設置等によるPR、道の駅等拠点との連携による情報発信、町内周遊観光促進事業の実施 ● 県（地域本部等）： 滞在型観光推進のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 </div>				

修正項目（案）

修正前

高幡地域アクションプラン

分野

観光

AP名 (実施地域)	No.41 ジップラインと道の駅を核とした四万十町（十和地区）の観光拠点整備事業 (四万十町)
実施主体	◎四万十町、道の駅四万十とおわ
APへの 位置づけ	R2.4月
事業概要	道の駅四万十とおわと四万十川ジップライン（仮称）を、四万十町十和地域の体験型観光の拠点とし、その他のアクティビティ施設等との連携を図り、交流人口の拡大とともに観光消費拡大を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 道の駅「四万十とおわ」 入込客数	8.5万人 (H30)	9.3万人		12万人
(2) ジップライン利用者数	—	—		1.2万人
(3) ジップライン売上高	—	—		2,200万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆道の駅「四万十とおわ」の運営強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H19.7.1 オープン ・指定管理者の経過 (株)四万十ドラマ (H19～29) (株)四万十とおわ (H30～) ・道の駅野菜売場等の改修 (R2) <p>◆四万十川ジップライン（仮称）の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点等整備事業費補助金を活用したジップラインの実施設設計の策定、整備 (R元) ・観光施設等緊急整備事業補助金を活用し、ジップライン対岸に位置するご成婚の森散策路の整備 (R2) 	<p><主な成果></p> <p>◆道の駅「四万十とおわ」対岸のご成婚の森から道の駅にむけて県内初となるジップラインを整備</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「四万十とおわ」の入込客数の減少 ・十和地域内の観光施設間の連携強化
---	---

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆道の駅「四万十とおわ」の運営強化	<p style="text-align: center;">野菜売場等の改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、道の駅四万十とおわ： 屋外にある野菜売場の改修を行い、夏場の野菜の品質管理の改善 ●県（地域本部等）： 売上拡大に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 	<p style="text-align: center;">ホームページや SNS を活用した積極的な情報発信</p> <p style="text-align: center;">新商品の開発など</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、道の駅四万十とおわ： ジップラインを活用した商品（記念写真、動画等）の開発、や SNS を活用した積極的な情報発信 ●県（地域本部等）： 新商品開発に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 			
	◆四万十川ジップライン（仮称）の運営	<p style="text-align: center;">ジップラインの運営（町）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町： スタッフの確保と人材育成（研修の実施）、魅力的な運営方法の確立 ●県（地域本部等）： 効果的な施設運営に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 	<p style="text-align: center;">ジップラインの運営（指定管理者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、道の駅四万十とおわ： スタッフの確保と人材育成（外国人観光客対応）運営方法の磨き上げ 自然体験型観光に特化した HP による情報発信 多言語対応の推進（英語、韓国語、中国語） ●県（地域本部等）： 効果的な施設運営に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 		
<p style="text-align: center;">十和地域内の周遊プランやバックツアーの企画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、道の駅四万十とおわ： ご成婚の森散策、川舟渡し、アメゴ釣り体験、ブルーベリー収穫体験、三島キャンプ場、交流センター及び十和地域内の宿泊施設等の観光資源を組み合わせた各種プランの作成を行い、交流人口と観光消費拡大、滞在時間の拡大を図る。 ●県（地域本部等）： 新たな商品作りに向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 					
<p>【用語】・ジップライン：木々やポール間に張られたワイヤーロープをフリーと呼ばれる滑車を使って滑り降りること。 ・ご成婚の森：1993年の今上天皇徳仁さまご結婚を記念して整備された森林公園</p>					

AP名 (実施地域)	No.40 ジップラインと道の駅を核とした四万十町（十和地区）の観光拠点整備事業 (四万十町)
実施主体	◎四万十町、道の駅四万十とおわ
APへの 位置づけ	R2.4月
事業概要	道の駅四万十とおわと四万十川ジップライン（仮称）を、四万十町十和地域の体験型観光の拠点とし、その他のアクティビティ施設等との連携を図り、交流人口の拡大とともに観光消費拡大を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 道の駅「四万十とおわ」 入込客数	8.5万人 (H30)	8.0万人		12万人
(2) ジップライン利用者数	—	1.1万人		1.2万人
(3) ジップライン売上高	—	2,499万円		2,200万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆道の駅「四万十とおわ」の運営強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H19.7.1 オープン ・指定管理者の経過 (株)四万十ドラマ（H19～29） (株)四万十とおわ（H30～） ・道の駅野菜売場等の改修（R2） ・道の駅駐車場の拡充（R3 未見込） <p>◆四万十川ジップラインの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点等整備事業費補助金を活用したジップラインの実施設設計の策定、整備（R元） ・観光施設等緊急整備事業補助金を活用し、ジップライン対岸に位置するご成婚の森散策路の整備（R2） 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「四万十とおわ」対岸のご成婚の森から道の駅にむけて県内初となるジップラインを整備（R2） ・道の駅とおわ内の周遊スタンプラリーの展開（R3） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「四万十とおわ」の入込客数の減少 ・十和地域内の観光施設間の連携強化
--	---

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆道の駅「四万十とおわ」の運営強化</p>	<p>野菜売場等の改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、道の駅四万十とおわ：屋外にある野菜売場の改修を行い、夏場の野菜の品質管理の改善 ●県（地域本部等）：売上拡大に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 		<p>ホームページや SNS を活用した積極的な情報発信</p>		
	<p>新商品の開発など</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、道の駅四万十とおわ：ジップラインを活用した商品（記念写真、動画等）の開発、や SNS を活用した積極的な情報発信 ●県（地域本部等）：新商品開発に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>◆四万十川ジップライン（仮称）の運営</p>	<p>ジップラインの運営（町）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町：スタッフの確保と人材育成（研修の実施）、魅力的な運営方法の確立 ●県（地域本部等）：効果的な施設運営に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 		<p>ジップラインの運営（指定管理者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、道の駅四万十とおわ：スタッフの確保と人材育成（外国人観光客対応）運営方法の磨き上げ 自然体験型観光に特化した HP による情報発信 多言語対応の推進（英語、韓国語、中国語） ●県（地域本部等）：効果的な施設運営に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 		
	<p>十和地域内の周遊プランやパッキングツアーの企画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四万十町、道の駅四万十とおわ：ご成婚の森散策、川舟渡し、アメゴ釣り体験、ブルーベリー収穫体験、三島キャンプ場、交流センター及び十和地域内の宿泊施設等の観光資源を組み合わせた各種プランの作成を行い、交流人口と観光消費拡大、滞在時間の拡大を図る。 ●県（地域本部等）：新たな商品作りに向けた産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
	<p>【用語】・ジップライン：木々やポール間に張られたワイヤーロープをブリーと呼ばれる滑車を使って滑り降りること。 ・ご成婚の森：1993年の今上天皇徳仁さまご結婚を記念して整備された森林公園</p>				